

男女共同参画推進センターでは、子育てと仕事や研究の両立支援を目的とした様々な取り組みを行っています。詳細、利用方法については、センターホームページをご覧ください。http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/ikuji_kaigo

病児保育室「こもも」

「京都大学男女共同参画推進センター病児保育室」は、京都大学教職員・学生の子どもが、病中・病後のため幼稚園・保育園・学校へ登園・登校できない時、親が仕事や研究を休むことなく、子どもの保育ができる環境を提供する施設です。京大病児保育室では、京都大学医学部附属病院と連携し、看護師・保育士が常駐する安心できる環境において、病児の保育を行います。

保育場所	京都大学医学部附属病院 外来棟 5階 ※東玄関（東大路通沿い）から入ってすぐ右にあるエレベーターで5階です。
対象者	生後6ヶ月～小学校3年生までの病中・病後の子ども
利用資格	京都大学教職員及び学生
定員	5名（隔離室を含む）



開室日	月曜日～金曜日
開室時間	7:30～19:00
利用料金	子ども1人につき、1時間あたり500円 （昼食・おやつ代を含みます） ※保護者が学生の場合は、保育料金の半額を大学が負担します。
保育体制	看護師、保育士

おむかえ保育

「決まった曜日だけ子どもを保育園に迎えに行けない。」「急遽夕方に打合せが入り、保育園のお迎えに間に合わない……」などで、困っていませんか。そんな研究者・学生のために、男女共同参画推進センターでは「おむかえ保育」を実施しています。運営は、民間企業に委

託して実施しています。保護者に代わり、センターが委託している企業から派遣された保育者（シッター）が子どもを保育機関などに迎えに行き、男女共同参画推進センターで一時保育を行うものです。

保育場所	京都大学男女共同参画推進センター保育室
対象者	生後2ヶ月～小学校3年生までの子ども
利用資格	京都大学に所属する学生・研究等に携わる教職員（日本学術振興会特別研究員を含む）
定員	5名程度（兄弟姉妹、年齢構成により異なる場合がある）

開室日	月曜日～金曜日
開室時間	17:00～22:00
利用料金	保育料金は、970円～1,410円/30分（税込） *時間帯により異なる ・利用は2時間以上、30分単位で受付 ・子ども1人についての料金です。 ・学生は保育料金のみ、大学が半額を負担します。 ・交通費・夕食等は別途実費が必要です。 ・状況により、その他利用手数料が必要です。

ベビーシッター利用育児支援

京都大学男女共同参画推進本部では、本学における教職員の仕事と子育ての両立支援を目的として、「ベビーシッター育児支援割引券」を発行して、ベビーシッター事業者が提供するサービスを利用した場合に、その利用料金の一部を助成しています。

対象事業は以下の2つです。

- ① ベビーシッター派遣事業
- ② 双生児等多胎児家庭育児支援事業



保育園入園待機乳児保育室

京都大学男女共同参画推進センターでは、学生及び研究等に携わる教職員の研究と育児の両立を支援することを目的とし、男女共同参画推進センター内に、「平成28年度保育園入園待機乳児のための保育施設」を設けています。この保育施設は、自治体に保育園入園申請をおこなったが、入園待ちを余儀なくされている研究者等を対象とします。



保育場所	京都大学男女共同参画推進センター保育室
開室期間	平成28年4月4日～平成29年3月31日
対象者	原則として生後9週目～15ヶ月未満の健康な乳児（15ヶ月になる月の前月まで利用できます。） 例：2015年12月10日生まれのお子さんの場合、2017年2月末まで利用可能

利用資格	京都大学に所属する学生・研究等に携わる教職員（日本学術振興会特別研究員を含む）
開室日	月曜日～金曜日
開室時間	9：00～18：00 （時間外保育は、8時～9時及び18時～20時までとし、別途利用料が必要）

フォーラム「これからの人生の話をしよう。 ～あなたのライフプランに新たな選択肢を～」

8月7日（日）、京都大学百周年時計台記念館2階国際交流ホールにて、ライフプランニング応援コミュニティ「choose it.」、京都大学COC事業「COCOLO域」、京都大学男女共同参画推進センターの共催で、男女のライフプランを考えるイベント「これからの人生の話をしよう。～あなたのライフプランに新たな選択肢を～」を開催しました。

ゲストとして、株式会社ワークスアプリケーションズCEOの牧野 正幸氏、日本たばこ産業株式会社多様化推進室長の金山 和香氏、NPO法人ファザーリングジャパン理事の西村 創一朗氏、作家で少子化ジャーナリストの白河 桃子氏、女子学生チームmanma代表の新居 日南恵氏が壇上にたち、前半と後半の二部に分かれてパネルディスカッションを行いました。第一部では、「男女のためのライフプランニング～両立ってできるの？～」というテーマで、金山氏、白河氏、西村氏が自身の子育て経験や育休経験などを踏まえて両立について論じました。第二部では、「これからの働き

方・育児システムについて」というテーマで、牧野氏、西村氏、新居氏が、育児システムを作っていく側の観点から、多様



化していく働き方について激論を交わしました。最後に、男女共同参画推進センター長の稲葉理事・副学長より閉会の挨拶があり、イベントは盛況のうちに終了しました。会場には男女150人もの京都大学を中心とする学生が詰めかけ、学生にとって自身のライフプランを考えるととてもよい機会となりました。

（ライフプランニング応援コミュニティ「choose it.」代表
京都大学法学部3年生 高島 菜芭）



連載：研究者になる！－第58回－

これまでを振り返って

経営管理大学院・准教授 木元 小百合

以前から、このコーナーで多くの女性教員の方々のメッセージを読ませて頂いておりました。今回この依頼を頂き、私自身は、未だに悩みながら研究・教育者生活を送っていますので、何を書けばよいのやら……と悩みましたが、改めてこのコーナーを読み返し、いろいろな研究者がいてよい、と励まされましたので書かせて頂くことにしました。

私の専門は土木工学の中の地盤力学です。また2年ほど前から、工学研究科（社会基盤工学専攻 地盤力学分野）と経営管理大学院を併任で担当しております。経営管理大学院は今年でちょうど創立10周年を迎えましたが、文理融合のビジネススクールとして、経済と工学（主に土木系専攻）の教員で運営されています。経営管理大学院では、これまでの専門に関連する形で（例えばエネルギー問題、防災工学）、新しい講義を担当させて頂くなど、自身の専門を広げるため模索中ですが、ここでは主に地盤の研究者としてのこれまでを振り返りたいと思います。

高校の進路選択の際には、建築を専門としていた父の影響と、当時、地元である神戸の近くで明石海峡大橋の建設が進められていたことなどにも影響を受けたように思いますが、「土木は面白そう」という直感と、将来は手に職を、と考工学部土木系の受験を決めました。京都大学へのあこがれもありました。土木系では、4回生で研究室に配属されますが、その時には「土（地盤）系」の研究室を選ぶことを決めていました。土の力学を当時は3回生ではじめて学びましたが、理論的に複雑でまだ分からない部分が多く、また理論だけではなく現場の経験によるところも大きいところに魅力を感じ、「土」を選びました。当時の指導教員で、その後長くお世話になることになった岡 二三生先生に、4回生の当初「なぜ土質力学を選んだのですか？」と研究室で聞かれ、自分の返事は忘れてしまいましたが、先生は「土の研究は、土の医者になるのと同じ。それぞれの現場で土の特性を知らなければならない」と仰い、やはり土を選んで正解だったと思いました。今も土は分からないことが多く、飽きることはありません。

それ以来、修士・博士課程、その後の教員生活を含め、現在の研究室に18年在籍しています。当時は全く予想していなかったことです。当時も、工学部の大半の学生は修士課程後に就職していました。修士2年の進路選択の際、専門性を活かした仕事に就きたいと思い、民間企業への就職も考えていましたが、自分の希望するようにはいかず、そのころ、「博士課程で研究を続けるという道もある」と指導教員であった岡先生に助言を頂きました。これは私が優秀な学生であったというわけでは全くなく、勉強がしたければウェルカムです、ということであったと思います。が、当時、博士課程で引き続き研究する、という選択肢に心が躍り、その思いにしたがって進学することを決めました。

その後、博士課程を経て、教員という立場になりました。その間も、研究が進まず、研究者に向かないのではないか、と悶々としたこともあります。ここまでやってこられたのは、岡先生をはじめ、先生方、学生を含め、よい出会いに恵まれてきたことと、飽きずに継続できたためであると思います。現在は、講義担当や学内外での仕事も増えました。研究、教育、社会活動の場でいろいろな機会を頂きます。今も、これからの研究の方向性、教員としての理想像など、考えなければならぬ課題は大きく、悩みは尽きません。が、とにかく何かを吸収して、続けることが大事と考えています。今後も自分と向き合い、周囲への感謝を忘れずに、日々精進したいと思っています。

女性という立場については、不満を感じたことはなく、逆に多くの機会を頂いてきたように思います。ただし、会議や学会でも女性がまだ少なく、マイノリティであることに慣れてしまいましたが、やはり窮屈に感じることはあります。もう少し女性が増えれば、活躍の場はさらに広がるように思います。最近では「ドボジョ（土木女子）」という言葉もありますが、この分野で女性研究者・技術者がもっと増えることを願っています。



Gender Equality Promotion Center

〒606-8303 京都市左京区吉田橋町
 電話 075 (753) 2437
 FAX 075 (753) 2436
 E-mail w-shien@mail.adm.kyoto-u.ac.jp
 HP http://www.cwr.kyoto-u.ac.jp/